

# いづみ会々報



第20号

東京都立大泉高等学校同窓会

紙井好美 代表

編集 紙井好美 印刷 紙井好美 発行 紙井好美 代理 紙井好美

いづみ会によせて

九代校長

竹内乙吉

同窓会に何か書いてほしい  
 とのご依頼だが、ご承知のよ  
 うに昨年四月、本校に着任し、  
 やっと校内の様子がわかった  
 程度で、同窓会については全  
 くその実態を知らないの  
 何を書いていいのかからな  
 くて困っている。

私についていうと、小学校  
 と旧制中学校と大学の同窓会  
 ということになるが、小学  
 校は戦後廃校になった関係も  
 あって、暫らく同窓会総会が  
 とだえていたのが、きつかけ  
 になって、一部の熱心な恩師  
 と先輩のご努力により復活し  
 たものの、このところ欠席の  
 連続である。大学の方は、そ  
 の創立が古いこともあって、  
 規模が大きすぎるせいか、あ  
 まり出席しようという意欲も  
 わかない。旧制中学には出  
 たり出なかつたりである。  
 それに比べて、母を羨まし  
 いと思う。近頃はめつきり身

体が衰えたので、外出するこ  
 とが億劫になったようだが、  
 つい最近、八十二、三才頃ま  
 で、嬉々として出席してきた。  
 母の話や、教職について本  
 校が六校目、過去の五校の経  
 験に照らして考えてみると、  
 同窓会がうまく運営できるか  
 否かは、一にかかつて縦の：

卒業年次の違う……：人間関  
 係をどうしたら親しい関係に  
 持つていけるかにあると思う。  
 程度の差はあるにせよ、横の  
 関係―同級会や同期会―は同  
 窓会として特に働きかけをし  
 なくても続いていくと思う。  
 同窓会が、なごやかで、か  
 つ活発な活動をしていくには、  
 縦関係をつなげるためのアイ  
 ディアと役員諸兄の努力が必  
 要で、そういう積み上げの上  
 に、総会が持たれるなら、出  
 席してよかつたという印象を  
 持ち、次回にも出席しよう  
 ということになるかと思う。

いづみ会の発展を祈るとと  
 もに幹事諸兄のお骨折りを多  
 とする。

昭和十六年 東京高等師範  
 学校卒  
 前福生高校校長

(校長室にて)



歴代校長先生



初代 室岡孝治先生 (故人)



二代 角英運先生 (故人)



三代 清水安麿先生



四代 小川定胆先生 (故人)



五代 清水真助先生



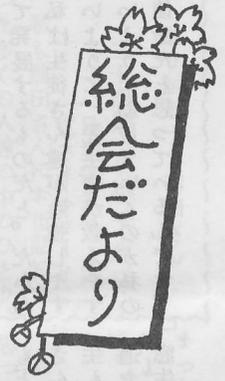
六代 所弘先生



七代 間瀬正次先生



八代 平馬鉄雄先生

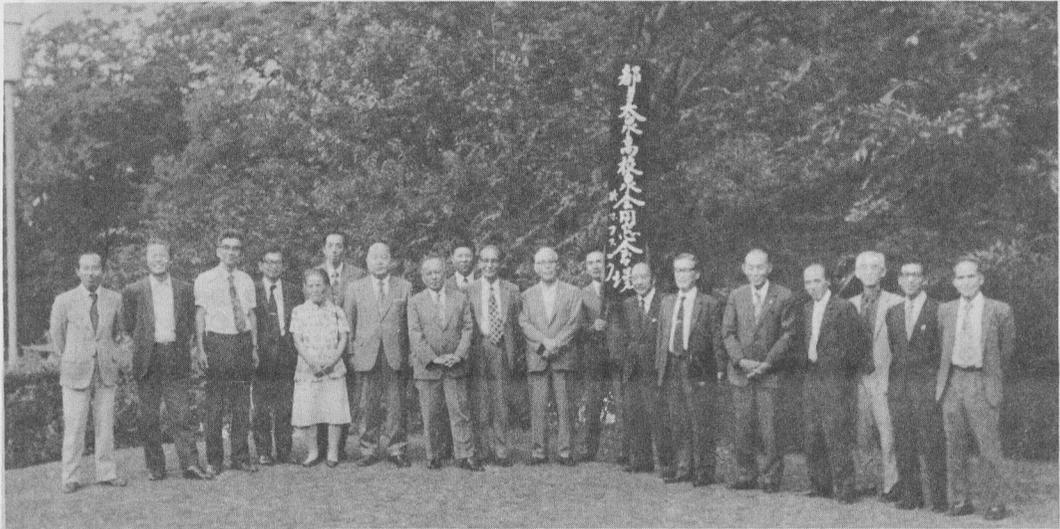


昭和五〇年六月二十九日、豊島園にて「いづみ会総会」。

平馬校長（当時）のご努力によって、特に先生方が大勢お見えになりました。高田先生、相川先生など、古い卒業生にも写真でおわかりでしょうか。伊藤静先生がこの後、故人になられましたことが更めて心に深く思われます。

いつもと同じ百名程の出席でしたが、現役時代の応援団長の指揮もあつて、校友の歌がさわやかに歌われました。それをおぼろにしか知らない世代にとつても、不思議に懐しく思われる名曲です。（伊藤先生作詞）

同窓会は幅広い世代の人々と触れ合う一つの機会。同窓生は、仲介者のいない、心の直につながる結び付きです。総会を母校で、という声も強いようですが、形式はまた問うとして、この大切な機会に、今年もどうか豊島園へお運びください。夫婦の同窓生、兄弟のそれ、そして、親子の大泉つ子も誕生しました。大泉の三十六年の歴史を、しみじみと総会の場で味わってください。（池辺）



### 総会のご案内

“ 29期生を迎えて ”

4月24日（日） 午後1時

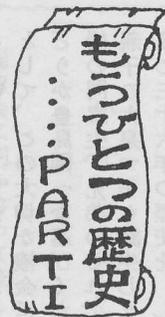
会場 豊島園内 “ふるさと”

会費 2,000円

1,000円（学生）

（昭和3年生れから昭和33年生れまでがいづみ会会員になりました。）





「前田さん」

大泉の母として

終戦後間もなくご主人をなくされた前田さんは、義理の弟さんが大泉で事務をとつていたことから、昭和二十二年にお子さんをかかえて長い大泉生活の一ページを開いた。

「長男が五年生の頃だったでしょう。か、日曜日になると学校のお手洗いのそうじを手伝つてくれました。」

その頃の前田さんの生活は決して楽なものではなく、また日曜もなかった。

「両角校長先生が私達にいったんです。学校というものは生徒と先生とそして私達職員とが三位一体となつてはじめて発展するものだ。だから私は生徒さん達が勉強しやすいうちに、先生達が教えやすいように助けていくのが私の使命だと思つてゐるんです。」



(印刷室にて)

この三位一体の信念は前田さんの中で今なお貫かれてゐる。この信念で働き続け、お子さんをりっぱに育てた前田さんだが、娘さんがお嫁にいった時は本当に悲しかったという。

「でもそんな時、ひとりの子供のことで悲しむより大泉には毎年何百人という人達がいって来る、その生徒さん達の母になろう、そう決心したんです。」

大泉の母前田さんのところに何人もの生徒が相談にいきなくさめられ、はげまされたりした。たとえ、母のもとを巣立つていっても何かの時にもどつてくる。初任給で前田さんにプレゼントをした同窓生もたくさんいる。遠く北海道や九州から手紙を出した同窓生もたくさんいる。そうし

た卒業してからの交流がなによりうれしいという。

「でも最近ではね、仕事の鬼みたいにいわれてけむたがられることもあるんです。私は大泉の母になりたかつたのになつてしまつたんじゃないかと思つてます。年寄りはず早く引退した方が。あとは言葉にはならなかつた。大粒の涙をこぼしながらさしたしたハンカチをうけとろうともしなかつた。

「たとえやめても行事があれば、姿は見せないけれど影で大泉を見守りたいんです。大泉には私の三〇年の歴史があるんです。ひとつの言葉に歳月の重みというものをこれほど感じたことはなかつた。しばらくは声も出なかつた。テーブレットのうなりだけが部屋に響いた。

前田さんがこれまでに私達にしてきてくれた事をあげればきりがない。まだ大泉の生徒になつていない高校入試の早朝、気ばかりあせつてあ

てもいない校門の前をうろろろしている時に寒いだろうと用務室に通されお茶を入れてもらった。そんな思い出のある人も多いはずだ。

学園紛争の嵐が吹き荒れた頃、大泉にも卒業式に疑問をいだいて坐り込みをした一団があつた。式終了後お屋をすぎても残されていた彼らにお寿司やお菓子をさし入れたのも前田さんだった。そんな前田さんの行為が緊迫した空気を和らげ大事には至らなかつた。もちろん指導部とのいさかいはあつたが、

「おこる人がいれば救う人もいなければだめです。」

以前にもやめようと思つた事があつた。学校に来るお客様にお茶をお出しするのも前田さんの重要な仕事のひとつだが、その際のみなりが悪いと誰かにいわれた時だそうだが。

「清潔なものを身につけてはいたんですけどね。情けなかつて本当にやめようと思つたんです。その事を話すと生徒さんや卒業生の人達が家までおしかけて来て、夜一〇時ごろまでぼく達ががんばるからやめるなつていうんです。私はこの人達のためにもつともつと働かなきゃいけない、そう思いました。」

私達のために一度踏みとど

ある日の前田さん。

(AM)

- 5:30 起床
- 6:30 家(東大泉町1248)を出る。
- 6:45 学校に到着。校長室・事務室、音楽室等個室のそうじ。お湯を沸かす。
- 7:40 印刷室にはいり、教材等の印刷。(この間客の接待もする。)

(PM)

- 6:00~30 帰宅 (試験中は7:00すぎ)
- 7:00 夕食。食後お孫さんをおフロにいれる。
- 9:00 おやすみなさい。

(注) 規定労働時間 8:00 ~ 4:30

本当にご苦労様です。

ありがとう 前田さん

二十四期 水越千恵子

(日女体大卒・国立スイムコーチ)

私も前田さんにお世話になつた多くの人達の中のひとり。覚えていらつしゃいますか。

あれは高校二年の頃。体育祭実行委員会の印刷係をひとりで引き受けていた私は、画書やルール説明書のガリを切るのが精一杯、とても印刷までは手がまわりませんでした。他の委員から非難が集中し始めたそんな時、山と積まれた原稿をあつという間に印刷してくれたのが前田さんでした。

卒業後、教育実習生として再び大泉を訪れた私は、毎時間の講義のプリントや研究授業の指導案とまた印刷物に悩まされましたが、前田さんはあの時と同じように、にこやかに迅速に処理してくれました。ついつい前田さんには甘えてしまいます。

どんなに無理をいっても快く引き受けてくれる前田さん。卒業しても変らぬ笑顔でむか

まった前田さん。私達の声は何よりのはげましになるはずだ。

前田さんの青春

こんなにも私達のことを思ってくれる前田さんの青春とは一体どんなものだったのだろう。

農家に生まれた前田さんは数学と作文の得意な少女だった。先生の勧めで女子師範学校を受けることになり準備をととのえ試験日を待った。そしてその前夜、兄と父の話し声をふとんの中で聞いた。おにいさんも先生の熱心な勧めもあり師範学校を受けたかつたそうだが、農家の後継者となつてほしいとの父親の願いの前にあきらめたという。しかし妹の受験を目の前にする

えてくれる前田さん。そんな前田さんのお顔を見ると母校に来たのだという気持ちがいっそう強くなります。

ありがとう 前田さん。い つまでもお元気で……。前田さんが印刷した文字の数と同じくらい感謝をこめて)

と動揺して父親に小さいがっだ。なんで女のくせに……。まだそんな時代だった。

「ふとんの中で泣きました。おにいさんの気持ちもわかります。先生になりたかつたんです。」

それでも試験だけは受けたそうだ。

「数学は全部わかりました。でもおにいさんに申しわけなくて答の欄にはでたらめを書きました。国語の漢字もわざとまちがえたし、面接でも私は行きたくないが先生がうるさいのでといました。」

この日が前田さんの運命を大きく変えたかもしれない。こんな思い出があるからこそ、在学中の生徒が父親の事

前田さんのメモ (その1)

お気に入りのテレビ番組「歌衝のグラウンドショー」「赤い衝撃」「名曲アルバム」など。歌が大変好きだそうです。一度前田さんののどを披露していただきたいですね。

前田さんのメモ (その2)

生年月日は明治44年4月9日。大泉に勤めて30年、今年とは都から銀盃が贈られます。結婚生活はわずか11年。まさに大泉は第2の彼ですね。

業の失敗から授業料が払えなくなるかとすくたてかえた。「学校に行きたいって気持ち大切にしたいんです。」

おわりに

青春時代には先生を夢見た前田さん。一時間あまり、涙をこぼしながら語ってくれた。大泉高校用務員、前田トメ、六十六才。うち三〇年間を大泉ですごしている。私達はこの人に何ができるのか、何をすべきなのか、このインタビューをした日からずっと考え続けている。その日は土曜だったが、このインタビューに時間をさいてくれた前田さんのいる印刷室の明りは六時をすぎても消

えなかつた。別れの挨拶をするにあの笑顔で私達を送ってくれた。その顔も大きく振った手の爪の中も、印刷のインクで真黒だった……。





校友の歌・校章・校章

橋本精一

(大泉高校・国語科)  
両角先生のお話の要約。

「私は中学時代五年間を長野県立諏訪中学校の自治寮で過ごした。寮ではよく旧制高校の歌を歌った。大泉へ来て、戦後の青年の意気を掲げるには歌がよいと思った。旧制高校の歌は生徒の中から生れた。大泉の歌も、えらい人を作ってもらおうとは思わなかつたので、先生生徒に歌詞を求めた。たくさん集った歌の中で、伊藤静先生の作が一番よいということになった。この中には私の教育目標も入れてもらった。作曲は音楽の高田三郎先生にお願いした。これが校友の歌である。このような歌が続いてできることを期待したので、まず校友の歌第一号

というつもりであった。今でも歌いつがれているそう結構なことだ。

大泉中学校の校章は、なかに中の字を入れた桜の打抜きの上品なものであった。それを「ぬけ中」という者がいた。けしからんと思つた。新制高校になつて新しい図案を広く募集したが、岡野先生のが一番よかつた。これを「さかさ桜」という者があつたが、あれは若人が大空に向つて高く手を挙げてゐる姿、飛行機の上昇する姿である。」

先生のお話はまだ長く続く。昭和四十一年七月、本校創立二十五周年記念に、大泉の昔を語つていただいた。聞き手は小島先生、録音は私である。四年後に先生は亡くなつたので、この時のテープは貴重なものとなつた。

創立十周年記念に校歌制定が計画された。両角先生と河合先生が日夏歌之介先生にお願いしたが、校歌は詩想を規制するという理由で断られた。私も一度河合先生とお願いに阿佐谷のお宅へ伺つた。話を

少し省くが、結局三年越しの二十九年に我々の願いはかなつた。先生は新聞部の諸君に次のように話された。

「私は校歌を作るのは嫌いだ。校歌は詩としてあまり高くない。しかし今度は熱心な先生の頼みで引受けてしまった。校歌は郷里長野の農業高校のものと大泉のものだけで、これが私の最後の校歌である。永年住んでいる東京にひとつと思つて作つた。武蔵野の中にあるので、武蔵野の人の心の動きや、その環境を、教養ある人にねらいをおいて歌つてみた。このはげしい時代に、ここで静かに教養を身につけることのできる諸君は幸福である。学究的態度で学び、そういう態度で歌つてもらいたい。」

新古今集良経の歌で始まり、独歩の「武蔵野」から現世へと流れてゆく歌詞を読みかえずと、かつての高踏派詩人、お目にかかつた時の文人としての大人の風格が目につぶ。両角先生・伊藤先生・河合先生・日夏先生・校歌作曲者

の小松清先生も故人となられてしまった。

大泉小史

昭和十六年 府立二十中として設置認可。この年初めての遠足は豊島園、石神井公園。

昭和十七年 府立大泉中と改称、鷺宮の仮校舎より現在地に移る。

昭和二十二年 「校友の歌」決定。

昭和二十三年 都立大泉高校と改称。定時制課程併置す。

昭和二十四年 全日制定時制ともに、男女共学実施。

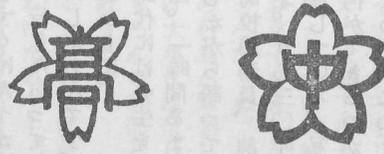
昭和二十七年 同窓会「いずみ会」と改称。

昭和二十九年 校歌制定発表会

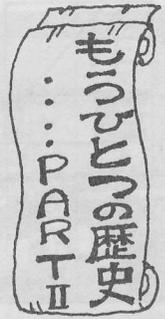
昭和三十年 体育館落成式、松村文部大臣臨席。

昭和三十二年 富浦に臨海学校開設。

昭和三十四年 大泉榛名寮竣工。



注・日夏歌之介(ひなつこのすけ) 詩人、評論家。明治二十三年長野県に生まれた。早大英文科卒。在学中に西条八十らと雑誌「仮面」を出す。のちに早大教授。主なる著述「明治大正詩史」詩集「転身の頌」「黒衣聖母」。



「大泉のおばさんたち」

購買部

生徒ホールに購買部ができたのは昭和三十八年のこと、そこで発足当時から働いているおばさんは田谷しんさん(五十三才)

「今はね、わら半紙よりレポート用紙、鉛筆よりシャープペンシルの方が売れるんだよ。」このホールの小さな一角でも時代が移り変わっていくのがよくわかると言う田谷さん。「昔はね、新学期だとか、文化祭だとかこの売り場にもやまばがあつたけど、今は都費の負担で購入する備品が多くなつたせいか、そういう持がいんでちょっとさびしね。」それにつれて売上げも頭うちでポータスなしだと嘆く田谷さん。いや田谷さんの本当の嘆きは、昔のように売上げ

の一部を生徒会に還元する意味でウオータークーラーなどが贈れなくなつたことにある。田谷さんの大泉高生を見る目は必ずしも甘くない。「おばさんに挨拶もできないし、無気力な生徒が多いね。そういう人にははつきりいつてやるんだおばさんは。」前田さんが生徒に対して母のやさしさを持つ人なら田谷さんは母の厳しさを持つ人だ。「でもね、いざという時にはみんなよく動いて、さすがだなあと感心することもあるよ。それにだれでも大学にはいるようになるはずと違つてくるね。ひとまわりもふたまわりも大きくなつて、まるで自分が育てた子供のようにうれしい気がするね。電車の中で見たつて卒業生はひと目で見かろさ。」

やはり大泉高生を愛する気持は同じだ。田谷さんは今日もホールの隅から生徒達を見守っている。

山田うどん

山田うどんが生徒ホールで営業を始めたのは昭和三十九年。山田うどんの社長は山田裕通さんで大泉の五期生である。山田うどん・カントリールーメンのフランチャイズチェーンは今では二百をこえるそうであるが、生徒ホールにできたころは、大泉の他に一軒だけだったという。生徒ホールの山田うどんはいわば草分け的存在といえよう。その山田うどん発足当時から働いているのが白川さつさん(六十八才)だ。だから生徒ホールでうどんやそばを食べた人は必ずや白川さんの手によるものを食べたことになるだろう。

この営業時間は原則として正午からだが早弁愛好家諸君のために十時をすぎたところから腕をふるうこともあるという白川さん。「生徒さん達は昔に比べてだんだん明るく自由になつてきたような気がします。わたしもたくさん食べてもらえれば

うれしいし、たのもしい気持ちです。」

そういう白川さんの気になことはやはり生徒の健康のことだそう。久しぶりに白川さんの手によるうどんをこちそうになつたが、あの頃と同じ味がした。

△山田うどんメニュー▽

- きつね 百十五円
- たぬき 百六十円
- カレールーどん・そば 百八十円
- 冷し中華 百八十円
- (今日も腕をふるう白川さん)

青線

大泉高校正門前の「青線」の正式名称は「ふじや」。昭和四十二年に営業開始。西門の「赤線」に対抗してこう呼ばれるようになった。

このおばさんは高橋富江さん。お年をたずねると、「若く書いといてよ。」と、いいながら片手を開いたり閉じたりして小さな声で「ごーごー。」と付け加えた。まだまだ若くてちゃめつたつぶりの五十五才の高橋さんだ。「大泉の生徒さんは、みんな開放的で明るいし、第一真面目な人が多いわね。」

ほんの少しのインタビューの間にも何人も人が訪れる。そうしたお客さんににこやかに接しながらのとぎれとぎれの高橋さんのお話だった。

「私はね、夏が一番好きなの。だってね、大学生になつた運(高橋富江さん)」





動部のOBの人達が休みになつてやってくるのよ。おばさん、おばさんってね。大学生になると見ちがえちやう人もいるけどね……。だから夏がいいわ。」

ひと汗流したあとのアイスクリームのおいしいこと。何年たつてもあの味は忘れられないものです。夏が好きだという高橋さん——その夏の陽の光のようにいつまでもキラキラしたものを持つているおばさん。私は運動部ではなかつたけれど夏になつたら必ず行きます。正門の一番近い所からこの門を出ていった人達を何人も見守り、そして再び訪れる日を楽しみにしている高橋さんの歴史はこれからも大泉高校といっしょに流れていく。

(青線)

赤線

西門近くの「赤線」のおばさん木村千代子さん(五十九才)にまず名前の由来から。「その頃(営業開始は昭和三十四年)は学校のまわりに塀もなく、西門のあたりには境界を示す赤い線が引いてあつたんです。その赤線と、この店に来るとついおこづかいを使いすぎて赤字になつてしまふし、食べすぎてしまふ、さうした一線をこえるという意味をもこめてこう呼ばれるようになったんですよ。」

この店のあるところはもと茶室にするはずだったさうで、店の正式名称は「さやま」。

「うちの子(赤線のお兄さんで親しまれた木村峻郎さん二十九才)は小学生の頃から大泉のバレー部の人達に可愛いがつてもらひましてね。そのバレー部の人達がこの辺にお店があるといいなあというんで茶室をお店にしちやつたんです。」

お店の建築費は千代子さん



(木村千代子さん)

「これガレージにするんですかって大工さんに笑われましたよ。」

めがねの奥のやさしい目も笑っていた。大泉の生徒のためひらいた店なのだ。はじめのうちは庭の芝生の上にグリーンのテントを張つて、漫画の本などをおいて無料開放していたさうだ。だからそのころは「グリーンハウス」と呼ばれていた。しかし、授業をさぼつてこの「グリーンハウス」にしけこむ生徒が多くなつたため学校側との交渉で、テントはたたきざるをえなくなつたという。

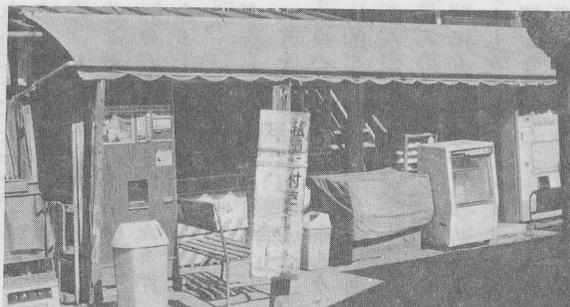
「赤線」でたばこを吸つた思い出のある人も多いだろう。この点千代子さんは、

「私は何事もしぼるっていうのは罪つくりだと思ひます。たばこが体に悪い事は高校生にもなれば充分承知しているでしょう。その上で吸うんだから私はとめません。外で吸つて火事にしても困るし、大泉の生徒の評判が悪くなるのもいやなので、それくらいならここで吸いなさいというんですよ。」

それは私達への理解というよりは信頼に近いものだ。西門がしめられてからの「赤線」はすっかりさびれてしまった。

「それでもね、大泉の皆さんの思い出の場所だと思ひます。なくなつちやつたらきつとさみしいにちがいありません。私の生きている限りはこの店を続けていきます。最初からもうけるためのものではないのですから……。」

大泉のために建て、大泉のために残していくという「赤線」。この小さな店の中には大泉を巣立つていったいくつもの青春がしみついている。



(赤線)





我々にとつての大泉中学とは、冬の厚い霜柱と春の砂塵と、そして秋にたなびく夕もやでした。その大らかな自然  
。写真(上)中一中二、(下)中三、高一

と、もう一つは戦争。この二つに育てられた我々を導いて下さったのは怖い先生方。本  
当に先生方はご熱心でした。  
—その先生方をお迎えした  
中一、二、三期、高一期の集  
りは昨年十一月十二日新宿  
「玄海」にて。心の奥底に触  
れる貴い貴い集りでした。  
(中二池辺)

高校八期

赤山 豊

(大蔵屋)

幾つになっても、いつ出合  
つても、青春時代に机を並べ  
あつた仲間懐かしい。

今や、殆んど母校を訪れる  
機会をなくしてしまつた我々  
ではあるが、不思議なことに  
その頃の仲間達と顔を合わか  
と、大泉高校の香りがただよ  
い、学園がその時代そのまゝ  
に脳裡に浮んでくる。

我々八期生は昭和十二年か  
から四十代に入るわけである。

青春時代から中年時代を迎え  
た我等仲間達の容姿の変化、  
時代の移りかわりはあつても、  
若き日の面影や気持はいつま  
でも変わることはない高校時代  
そのまゝである。

時々(といつても実際はか  
なり間があくのだけれど)仲  
間が集るとき、つい昨日会つ  
たばかりだという気がするの  
も、人生の大切な時期に裸で  
付きあえた仲間達であつたか  
らに違いない。そして、現在  
みたいに受験体制というコン  
ベアに乗せられた生徒達では  
なく、よく遊び、よく運動し、  
それから勉強をした生徒達で  
あつたからかも知れない。

ともかく、我々の仲間は男  
も女もよく集ってくれる。同  
期会はもちろんのこと、ゴル  
フ会、新年会、忘年会といつ  
た口実で召集をかけるとすぐ  
に集ってくる。それは心のか  
よいあつた仲間ともいえるし  
わけへだてなく付きあふこと  
の出来る友人だからなのかも知  
れない。

卒業五周年記念(昭三六・  
一〇)、卒業一〇周年記念(

昭四一・五)卒業二〇周年記  
念(昭五一・四)。これが今  
迄開催したメインの同期会で  
ある。当日は担任、副担任の  
先生方をはじめ前田のオバチ  
ヤンにもご足労を願ひ、いず  
れも出席者は三五〇名中一六  
〇名集りという大盛況であつ  
た。

こんな雰囲気が楽しくて、  
いつも首を突込んでいるうち  
に、いつの間にか万年幹事に  
任命されてしまつた感がある  
が、それは、ひとたび召集を  
かけると、昔の仲間達がいっ  
でもすぐに集ってきてくれる  
からこそ、意気に感じている  
からであつて、他の何にも換  
えることのできない私の喜び  
でもあるからだ。

しかし二〇数年の歳月の流  
れのなかに、集まれ、と呼ん  
でも、今や来てくれることの  
ない顔の数々もある。  
我々のために情熱をかけて  
ご指導してくださつた先生や、  
一緒に学び、一緒に遊んだ仲  
間達のなかで、不幸にして他  
界された方々のご冥福を祈念  
して筆を置く。

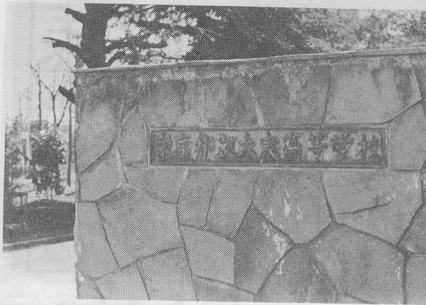
「高校二十一期」

守本 純

（埼玉大卒・防衛庁防衛大）

第四回二十一期同期会を五十一一年一月十七日に市ヶ谷会館で開催。市村・細川・田上の諸先生方、中途転校した人等の参加も得、盛会のうちを終了致しました。二次会、三次会等へも多数の参加で幹事一同感激しております。

次回は卒業十年を記念して盛大に行いたいと考えます。是非、皆様の出席を。住所変更等ありましたら御一報下さい。練馬区春日町五一一九一六



「助教会」

二十五期 笠原美貴枝

（大妻女子短大卒・大泉高校助手）

毎年七月末になると、千葉県の富浦で開かれる臨海学校に水泳指導のため五十名近い同窓生が各地からかけつけます。夏休み中の学生が主ですが、各界で活躍している社会人もこの日のために大切な休暇を利用してやっています。生徒にとつて安全で、少しでも多くの楽しい思い出を作る手助けをするのがこの助教の仕事であり、そのためには厳しい先生にもなり、また愉快な先輩にもなります。けれどもこの臨海学校は、助教にとつても大切な勉強の場なのです。度重なるミーティングは単に水泳指導のためばかりではなく、社会的な指導者へのワンステップなのだといわれたことがあります。

この共同生活を通じて得る人々のふれあいは、自然の中に溶けこんだ解放感と共に心に深く根をおろしていくよう



な気がします。

そしてなごやかな雰囲気にも包まれて新しい人生をスタートした人々も生れました。人工島沖での決戦や指揮棒に合せて歌って踊る奇妙な遊泳、夜の浜辺でしみじみと語り合い大声をはり上げて歌った校友の歌……

童心に振り返り過ぎた人々とのこんな日々を思い出すたび夏の再会を待ちきれなくなり、今では年に二、三度会合を開いたり、三月にスキーツアーも行なうようになりました。

毎年新しいメンバーを加えて成長する助教会は、大泉高校の伝統的な行事である臨海学校がいつまでも続けられることを心から望んでいます。

サッカー部OB会

二十四期 村山裕樹

（早大大学院）

月日のたつのは、早いもので、母校を卒業してからもう幾年月になります。毎年毎年多くの若き後輩達が私達の仲間に加わってくることを思うと、改めて私達もすっかりしなげればと痛感致します。どのクラブにおいてもいえることとは思いますが、最近の新OBの活躍は、目を見張るものがあります。現役サッカー部も成績では都の上位に常にかおを出し、あわよくば首位の座を狙おうと、虎視眈眈としております。数十年前の輝かしい伝統に負けぬ最近の現役諸君の活躍に、OBの方々もきつと満足なされるものと思えます。

さて、こうした実力ある選手達をかかえる大泉OBサッカークラブは、大変レベルの高いチームとなっており、先頃おこなわれた、第二十八回練馬区民大会におきま

しても、中村中学OBチームと1-3と敗れたものの準優勝という立派な成績を残しました。また五十一年度第三回石神井一対大泉OB定期戦もトータル9-5で大泉OBチームが勝利を収めました。今年の定期戦は、大泉高校グラウンドで開催の予定ですので、その節はよろしく願ひ致します。

やがて春のOB総会を迎えます。お仕事もいろいろとお忙がしいとは思いますが、たまには世代を越えて一緒に汗を流してみるのは、よろしいのではないでしうか。

ブラ・パンOB会って

二十四期 山本佳代子

（東大短大卒・慈恵医大図書館）

ちょっと乱暴な言い方だけど、吹奏楽部OB会をこう呼ぶのが一番しっくりくるような気がします。現役（はるかな昔）の時 Brass Band と呼ばれるのを非常に嫌い、むきになって、吹奏楽部/を連発していた私たち。ところがOBとなるや、この「ブラ

パン」に親しみを感じてしま  
った。この変化がOB会を象  
徴している感じもするのです。  
怒哀楽がある、ブラバンOB  
会なのです。  
注・現役時代、Bass  
Band の名を嫌ったのは、  
Bass が金管楽器しか表  
わさないことと、男子部員が  
プラスバンドと言わず、プス  
ラバンドともじつたためなの  
です。

「連絡しよう」各期の  
幹事紹介。

○真夜中の湖一周ーこれは先  
頭に歩く人の持つ Alcohol  
につられて完遂……………。

。管理人のおげさんを見て真青  
いなにしる彼女が帰ったと安  
心して、悪口を大声で言っ  
いた最中に出現されたので。  
むろん、こんなハメをはず

した話だけではなく、OB会  
の在り方をまじめに考えてい  
る人もいますし、就職等の悩



(体育館裏の新部室棟)

- みを先輩に相談したりもでき  
ます。一人の人間のようには喜  
怒哀楽がある、ブラバンOB  
会なのです。
- 注・現役時代、Bass  
Band の名を嫌ったのは、  
Bass が金管楽器しか表  
わさないことと、男子部員が  
プラスバンドと言わず、プス  
ラバンドともじつたためなの  
です。
- 「連絡しよう」各期の  
幹事紹介。
- 中学一期 名倉光雄  
豊・目白五五八  
(九五三)〇三二八  
中学二期 菊谷義美  
練・東大泉三八〇  
(大泉高校内)
- 中学三期 鰐川省三  
高校一期  
事務所(二五三)二七四〇  
高校二期 谷 秀男  
豊・長崎五一〇一九  
(九五七)六五一四  
高校三期 中山茂雄  
練・石神井町七二七二二  
(九九五)八四七一  
高校四期 佐々木健雄

- 豊・南長崎四一四一一〇  
(九五二)〇四八六  
高校五期 田中依子  
練・春日町一九四  
(九九九)六〇〇一  
高校六期 篠 匡昭  
練・旭丘一六七  
(九五三)三三三六  
高校七期 遠藤 寛  
練・東大泉三五四  
(九二二)五二四〇  
高校八期 山谷敬之  
練・東大泉三八〇  
(大泉高校内)
- 高校十期 佐々木啓之  
豊・南長崎五一四一九  
(九五二)五一四一  
高校十一期 町田 訓  
町田市広袴町六九九一六  
(〇四四)九八一三二六八  
高校十二期 高桑 泉  
新座市片山一四一四二〇  
(〇四八)七七七〇四六  
高校十三期 戸田一誠  
練・南大泉七六〇  
(九二二)〇二三一  
高校十四期 吉田登代子  
練・東大泉三八〇  
(大泉高校内)
- 高校十五期 藤高和信

- 千葉市穴川四一九一七  
(〇四七)五四一五九四二  
高校十六期 高野 泰  
中野・野方五七七一二二  
(三三九)八七三二二  
高校十七期 藤勝周次  
東久留米市永川台一一二  
一四  
(〇四四)七一〇六三五  
高校十八期 古屋一仁  
杉・上井草一三六一一五  
(九二二)五九七五  
高校十九期 渡辺千枝子  
千葉県柏市旭町四一一一八  
松崎ハイツ二〇一  
(〇四七)六二八五五四  
高校二十期 西尾淑人  
練・大泉学園町一一五  
(九二四)〇七二五  
高校二十一期 守本 純  
練・春日町五一九一六  
(九九〇)五九八五  
高校二十二期 向原粧子  
東大和市清水二一八四一一  
二 清水コーポ  
(〇四五)六四四〇七二  
高校二十三期 平野博文  
練・北大泉一〇一三  
(九二二)八二五二  
高校二十四期 榎本隆広

- 練・南田中二一六一二  
(九九七)七四八一  
高校二十五期 笠原美貴枝  
練・東大泉一八二  
(九二二)七八五四  
高校二十六期 高橋文雄  
杉・下井草四一六一一四  
(三九九)九七〇二  
高校二十七期 吉野健三  
練・東大泉一三〇  
(九二四)五一一九  
高校二十八期 西沢正博  
練・石神井町三一八一七  
(九九七)四五八五  
高校二十九期 杉山正樹  
中野・大和町二二二一四  
(三三九)二八二四  
高校九期の幹事の方、大泉  
高校同窓会あてに連絡をお願  
いいたします。

